

12月3日から9日は
「障害者週間」

特集

心、通じる。 伝わる、想い。

～手話を知る～

問合せ 障がい福祉課 ☎ 76 - 1127
FAX 76 - 4595

手話は言語です

手話は、手指や体の動き、表情を使って表現する「見る言語」です。

耳の聞こえない方のコミュニケーション方法の一つである手話は、最近ではテレビの記者会見などで手話通訳者の姿が映し出されることも多くなり、身近に感じられる存在になりました。

今回は手話を使ってコミュニケーションをしている方々にスポットをあて取材しました。

取材を進めると、相手の気持ちに寄り添い、心と心で話し合う、やさしくあたたかい想いがみえてきました。



聞こえない・聞こえにくい人の割合

全国では、聴覚・言語障がいにより障害者手帳を持つ人が約 34 万人おり、日本の人口の約 0.27% です。

また、一般社団法人日本補聴器工業会の「Japan Track2018 調査報告」によると、11.3%（18 歳以上では 13.2%）の方が「難聴またはおそらく難聴と思っている」と回答しています。

※ 1 厚生労働省「平成 28 年生活のしづらさなどに関する調査」
2 総務省「人口推計」2016 年 10 月 1 日現在総人口



手話で挨拶してみよう

日常生活で使える代表的な手話をご紹介します。
難しく考えず、まずは真似してやってみてください。



「おはよう」

「朝」と「あいさつ」の手話を組み合わせて表現します。朝は枕から頭を外す様子を、あいさつは2人がおじぎりする様子を表します。



「こんにちは」

人差し指と中指で時計の正午を指し、これにあいさつの手話を組み合わせて表現します。



「こんばんは」

顔の前で両手のひらを交差し、暗くなる様子を表し、これにあいさつの手話を組み合わせて表現します。



「よろしくお願いします」

「良い」と「お願い」の手話を組み合わせて表現します。



「ありがとうございます」

勝ち力士が手刀を切る様に表現します。



「お疲れ様です」

片方の手のこぶしで、もう片方の手首の上を2回たたきます。

手話に少し興味を持って「こんにちは」や「ありがとうございます」などのあいさつを覚えていただくだけでも、手話をコミュニケーション手段としている人たちが、暮らしやすい地域社会の実現につながっていくと思います。
ぜひ、手話に親しんでみてください。



障がい福祉課
安藤（手話通訳士）



手話サークル

おてだま

サークル設立：昭和 58 年
 メンバー：45 人（ろう者 10 人）
 活動日時：毎週水曜日
 午前 10 時～正午
 活動場所：ふれあいセンター



サークル代表
 門脇 潤子さん

意見を自由に言いやすい、居心地のいい雰囲気
 を大切にサークル活動さ
 せていただいています。
 毎週水曜日の活動のほ
 か、市内小学校で実践教
 室を開催し、聴覚障がい
 者について一緒に考える
 授業をさせていただくこ
 ともあります。
 人それぞれの話し方が
 違うように、手話も人そ
 れぞれの個性が出ます。
 サークル活動の中でそう
 いった面白さも体験して
 いただけたら良いと思
 います。
 難しいことは考えず、
 まずは気軽に手話を体験
 してみませんか？

手話を通じて聴覚障がいのある方との交流を深め、お互いに理解し合い、より良い地域づくりに貢献していくために頑張っている人たちがいます。今回は2つの手話サークルの活動をご紹介します。ご興味のある方は社会福祉協議会（☎ 77 - 0123 ☎ 75 - 2666）まで。

手話サークル

ふたば

サークル設立：昭和 56 年
 メンバー：40 人（ろう者 4 人）
 活動日時：毎週木曜日午後 6 時 30 分～
 8 時 30 分
 活動場所：ふれあいセンター



サークル代表
 奥村 久美子さん

「手話を学んでろう者の良き友となり、全ての人に対する差別や偏見をなくすために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく」ことを目的に、ろう者さんとともに、生活しやすい社会づくりをしていこうという想いで活動しています。
 手話の技術向上だけでなく楽しい時間を過ごすことを何より大切にしています。
 たまにの参加ももちろん大丈夫です。ご興味のある方はぜひ、お気軽にお越しください。

※今回の特集で使用する「ろう者」とは、生まれつきまたは幼少期に聞こえなくなり、手話をコミュニケーション手段とする人です。

手話以外のコミュニケーション

耳が聞こえない、聞こえにくい方は、手話の分かる人ばかりではありません。聞こえなくなった年齢（例えば高齢難聴者など）や聞こえの状態はさまざまです。身振りや表情豊かに話すことも大切です。相手に寄り添ったコミュニケーション方法で、会話をしてみましょう。

筆談・空書

ノートやメモ帳、空中などに文章を書いて会話します。



市役所の窓口でも、案内表示（右記）をして筆談での対応をしています。案内表示の右下にある緑のマークは聞こえが不自由なことを表す「耳マーク」です。



口話

相手の口の動きを見て言葉を読み取ります。



音声翻訳

スマートフォン・タブレットなどで音声翻訳ソフトを介してコミュニケーションを図ります。



人にやさしい気持ちを・・・

もしあなたが障がいがある方とコミュニケーションをとる時は、相手に伝えようとする気持ちや相手の伝えたいことを分かってもらう気持ちが大切です。

「耳や目に障がいがあってコミュニケーションがとりにくくて困っている」「車いすの方が段差で困っている」そのような場面で自分では何ができるのでしょうか。やさしい気持ちに、ほんの少しの勇気をもって踏み出してみましょう。

障がいのある方も障がいのない方もともに支えあいながら暮らせると良いですね。

「理解してもらっている」という気持ちが伝わるだけで嬉しい



私の場合、普段のコミュニケーションが一番不安になるのが「耳に障がいのある自分を理解してもらっているのかどうか」ということです。

昔と比べて今は耳の不自由な私たちへの理解が深まり、困ったときに聞こえないことを伝えると笑顔で筆談してくれる方がたくさんいらっしゃいます。

たとえ手話が分からなくても、「耳が聞こえない人なんだ」と理解して接していただけるだけで「ほっとする」んです。

もちろん手話の認知度が広がって、「少しでも手話が分かりますよ」という人が増えると良いなあと思いますが、まず何より笑顔でニコツとしていただけたらとっても嬉しいと思います。

塚本 萬喜子さん（ろう者）